

第2章

調査結果の活用

個人結果票の見方や、非認知能力・学習方略に関する分析、調査の活用方法について掲載しています。

校内研修の資料や、調査結果を分析する際の参考としてご活用ください。



(1) 個人結果票の見方について

今年度初めて
実施の児童生徒

児童生徒に配布される個人結果票の例（小学校第6学年国語）

今年度の調査で測定した児童の学力のレベルが示される。

1つのレベルは、さらに3層（A、B、C）に分かれている。

例は、レベル7-Cの学力を示している。

今後の学習に生かせるように、一人一人に応じた学習に関するアドバイスが示される。

教科の領域等別正答率として、県の平均正答率と児童の正答率が示される。

児童の得意分野と苦手分野が分かる。

国語

教科に関する調査結果

今までの学力の変化

あなたは、「レベル7」の学力があります。

		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高 ↑ 学力 ↓ 低	レベル12						
	レベル11						
	レベル10						
	レベル9						
	レベル8						
	レベル7						
	レベル6						
	レベル5						
	レベル4						
レベル3							
レベル2							
レベル1							

学習に関するアドバイス

昨年度この調査を受けていないため、昨年度からの学力の伸びはわかりませんが、あなたには表示されているレベルの学力があります。日々の授業を大切に、積極的に学習に取り組んでいきましょう。

話すこと・聞くこと・書くことは、よくできました。さらに力をのばすために、話し合いをする時には、自分の役わりに応じて工夫して話すように心がけましょう。例えば、自分の考えをはっきり示してから理由を言ったり、発言内容を短くまとめたりするとよいです。書くことの学習では、図表やグラフなどの資料から読み取った内容をもとにして自分の考えを書けるようにしましょう。

また、物語を読む時には、気持ちの変化に気付くように意識しましょう。そのために、登場人物の様子や考えについて順を追いながら読むようにするとよいです。説明文を読む時は、筆者の考えが書かれている文や話題の中心となる言葉に注目しながら読むと、内容がよく分かります。

白い部分が学力の調査範囲を示している。

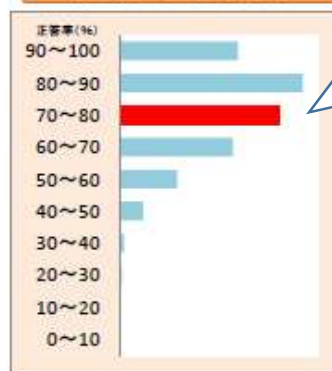
小学校6年生の場合は、レベル3からレベル9までが調査範囲となる。

来年度は次の学年の欄に学力レベルが示される。これにより学力の変化を見ることができる。

教科の領域等別正答率

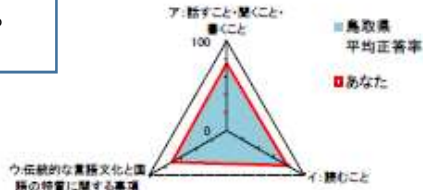
あなたの正答数	教科数	あなたの正答率(%)	県全体の平均正答率(%)	
ア	3	4	75.0	70.0
イ	7	9	77.8	83.4
ウ	12	17	70.6	71.7
全体	22	30	73.3	75.0

県全体の正答率分布



県全体の正答率分布と、児童の正答率が示される。

県全体における、おおよその位置が分かる。



あなたの正答率は、県全体の正答率分布の ■ に含まれています。

児童生徒に配布される個人結果票の例（小学校第6学年国語）

昨年度も実施している児童生徒

国語

教科に関する調査結果

今までの学力の変化

あなたの学力は、「レベル9」まで伸びました。

		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高	レベル12						
	レベル11						
	レベル10						
↑	レベル9						
	レベル8						
	レベル7						
↓	レベル6						
	レベル5						
	レベル4						
低	レベル3						
	レベル2						
	レベル1						

学力がどのレベルまで伸びたかを記載している。

昨年度に続いて今年度の学年の欄に学力レベルが示されている。赤いバーの上下の推移により学力の変化を見ることができる。

学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、昨年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信を持ち、よさをさらに伸ばせるよう、今後も授業などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。

読むことは、大変よくできました。さらに読む力をのばすために、学習した物語の作者が書いている他の作品を読んだり、調べ学習のときに複数の本から資料を集めて比べながら読んだりしましょう。文章を読むときには、登場人物の気持ちが情景や様子に表れているところに注目して読んだり、文章の要点をとらえて表にまとめたりしながら読むとよいです。

また、文章の意味がよくわからないときは、まず、主語と述語を考えて、誰が何をしているのかつかむようにするとよいです。次に、「そして」「しかし」などのつなぎ言葉に注意して読むと、文章の構成を知ることができます。

昨年度からの学習状況を踏まえて、今後の学習に生かせるように、一人一人に応じた学習に関するアドバイスが示される。

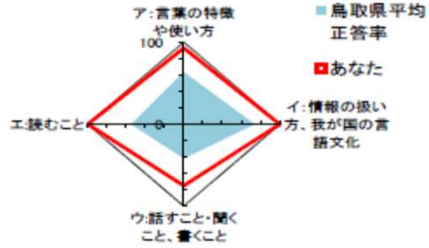
教科の領域等別正答率

	あなたの正答数	総問数	あなたの正答率(%)	鳥取県平均正答率(%)
ア	13	14	92.9	63.5
イ	3	3	100.0	73.8
ウ	3	4	75.0	41.8
エ	9	9	100.0	54.6
全体	28	30	93.3	59.0

県全体の正答率分布



あなたの正答率は、県全体の正答率分布の に含まれています。



個人結果票の返却の際のポイント

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。

児童生徒、保護者に返却する際には、ただ手渡して終わりではなく、可能な限り、個人結果票の記載をもとに個別に話をする時間を取るようしてください。

先生方は、児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見し、改善を図ることができるように活用してください。

児童生徒には

- 本調査の特長を伝えます。
 - ・「学力の伸び」が分かる調査であること
 - ・現在の「学力のレベル」が分かる調査であること
- 一人一人の1年間のがんばりや伸び（実施2年目以降の学校）を認め、ほめます。

その後、苦手領域を中心に家庭学習にも取り組むように言葉かけをします。
- 今後の学習に対する個別のアドバイスをします。

保護者には

- 可能な限り時間をかけて、子どものよさを伝えます。
- 子どものがんばりや伸び（実施2年目以降の学校）を認め、ほめた後、課題についても端的に伝えます。
- 伸びたところをほめる（実施2年目以降の学校）とともに、苦手領域を中心に家庭学習にも取り組むことの重要性を伝えます。

◇とっとり学力・学習状況調査は、過去の自分と現在の自分の学力を比較できる設計となっています。（実施2年目以降）一人一人の児童生徒に対して、個人結果票を活用して学力の変化の状況についての適切な働きかけを行うことにより、今後の学力向上につなげていただきたいと思います。

◇学力の変化を見ながら、伸びた児童生徒に対しては認める・ほめることを通じて自信を持たせ、伸びていない児童生徒に対しては、教育相談等を行うことでつまずきや悩み等を共有し、取組に対して丁寧な見取りを行う等をしてください。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実施と 非認知能力・学習方略に関する分析について

平成27年度から本調査を実施している埼玉県教育委員会が、平成27年度から平成30年度に得られた毎年約30万人分の調査データを、統計学や教科教育の専門的な研究機関である慶應大学のSFC研究所へ委託して分析を行った結果、次のようなことが分かってきました。鳥取県教育委員会では、このような先進的な知見を生かし、非認知能力や学習方略の課題解決を通して、学力の向上に取り組んでいきます。

◆「主体的・対話的で深い学び」は、子どもたちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通して、学力を向上させる。

(下図①～④)

◆「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子どもたちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要である。

(下図⑤～⑦)

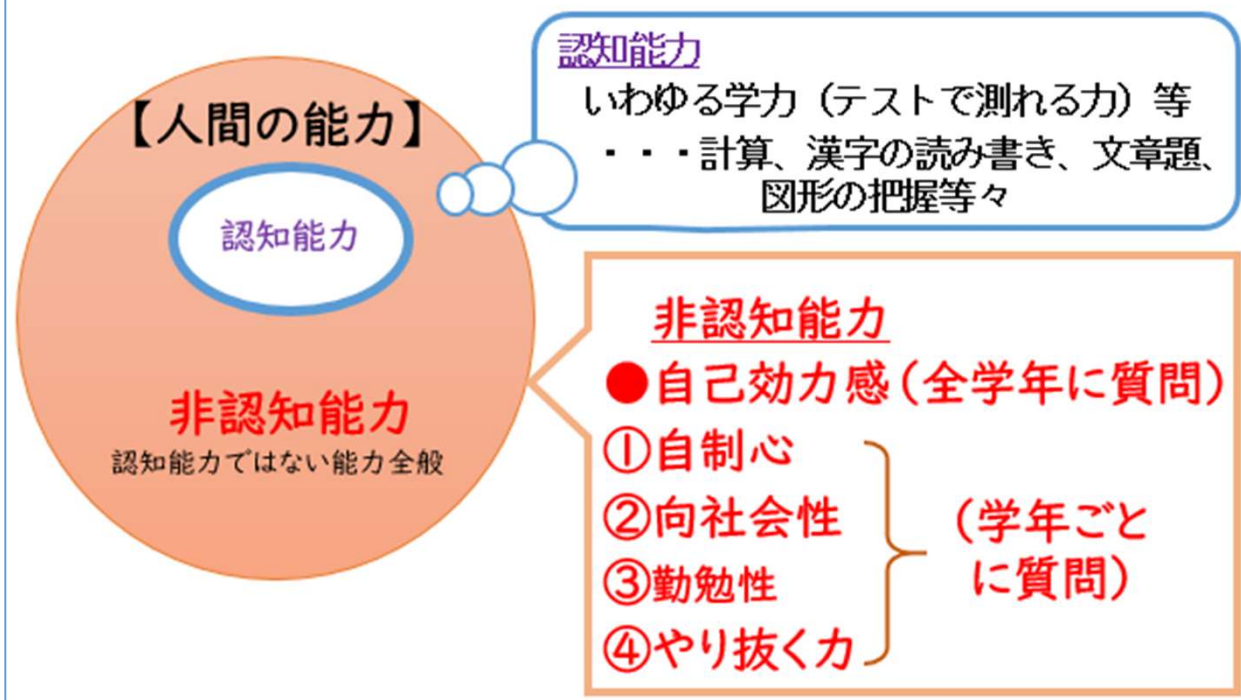
⇒「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。

⇒「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばしやすい。



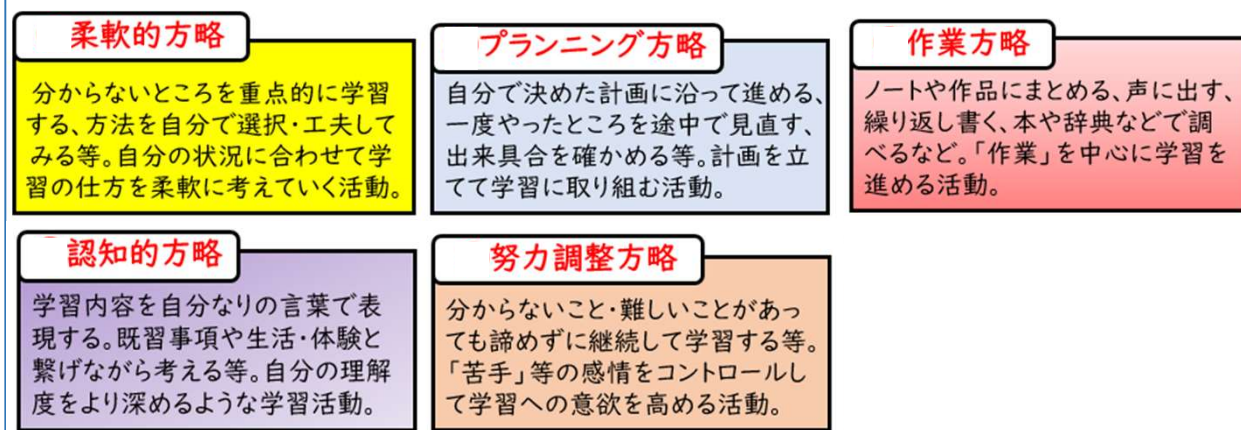
埼玉県の調査結果分析から、「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子どもの「非認知能力」「学習方略」を向上させ、学力向上につながることが明らかとなっています。

【とっとり学力・学習状況調査で測る**非認知能力**】



「**学習方略**」

効果を高める学習の仕方や工夫・態度の育成



【**非認知能力・学習方略**】

学習の下支えとなる力であり、成長を促すもの。

学力の向上には、非認知能力や学習方略が高まることが大きく関わっていることが、データの分析から明らかになっています。



【帳票40】を活用することで、児童生徒一人一人の非認知能力や学習方略について分析することができます。

ここでは、分析に使用されている項目（主体的・対話的で深い学びの実施、非認知能力、学習方略）について説明します。

それぞれの項目の調査結果の活用については、この後説明している『帳票を活用した分析について』を参考にして、一人一人の主体的・対話的で深い学びの実施や非認知能力、学習方略等の強みや課題を見だし、強みをさらに伸ばしたり、課題の解決に向けて取り組んだりすることに生かしてください。それが学力向上につながると考えられます。

【1】 主体的・対話的で深い学びの実施について

学級における主体的・対話的で深い学びの実施状況を数値化した値です。

*児童生徒質問紙の回答から算出した値のため、教師が実施したかどうかではなく、児童生徒が実施についてどう受け止めていたかという値になります。

主体的・対話的で深い学びの実施	*学年により、質問項目が異なります。
<p>【児童生徒質問紙の項目(例)】 あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、今日はどんな学習をするのかを把握してから学習に取り組んだこと ・授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと ・わからないことなどを質問しやすい雰囲気で行われたこと ・教材やワークシートがあることで、学習しやすくなったこと ・グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと ・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりとめるようになったこと ・話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと ・授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思ったこと ・授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと ・授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと 	

【2】 非認知能力について

テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では令和4年度から**全学年**を対象に「**自己効力感**」を、**学年別に「自制心」「向社会性」「勤勉性」「やりぬく力」**の4種類について質問しています。

●自己効力感	<p>自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p>
<p>【児童生徒質問紙の項目】全学年対象に質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている ・教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う ・授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う ・先生が出した一番難しい問題も理解できると思う ・学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う ・学校でよい成績をとることができるだろうと思う ・授業で教えてもらったことは使いこなせると思う ・授業の難しさ、先生のこと、自分の実力などを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う 	

①自制心	自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など
【児童生徒質問紙の項目】令和5年度の小学校4年生、中学校2年生に質問 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で必要なものをわすれた ・他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした ・何からん暴なことを言った ・つくえ・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった ・家や学校で頭にきて人や物にあたった ・先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった ・きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた ・イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹は入りません）に口答えをした 	
②向社会性	他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力。(例) 誰に対しても親切にするようにしている など
【児童生徒質問紙の項目】令和5年度の小学校6年生、中学校3年生に質問 <ul style="list-style-type: none"> ・私は、誰に対しても親切にするようにしている。私は、その人の気持ちをよく考える ・私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する ・私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける ・私は、年下の子たちに対して、優しくしている ・私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする 	
③勤勉性	やるべきことをきちんとやる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など
【児童生徒質問紙の項目】令和5年度の中学校1年生に質問 <ul style="list-style-type: none"> ・うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ・ものごとは楽しみながらがんばってやります ・自分がやるべきことにはきちんとかかわります ・授業中は自分がやっていることに集中します ・宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度もかくにんをします ・ルールや順番は守ります ・だれかと約束したら、それを守ります ・自分の部屋やつくえのまわりはちらかっています ・何かを始めたら、ぜひ対終わらせなければいけません ・学校で使うものはきちんと整理しておくほうです ・宿題を終わらせてから、遊びます ・気が散ってしまうことはあまりありません ・やらないといけないことはきちんとやります 	
④やりぬく力	自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など
【児童生徒質問紙の項目】令和5年度の小学校5年生に質問 <ul style="list-style-type: none"> ・大きな課題をやりとげるために、しっばいを乗り越えてきました ・新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります ・きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります ・しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません ・少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます ・何事にもよくがんばるほうです ・いったん目ひょうを決めてから、そのあとべつの目ひょうにかえることがよくあります ・終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません ・始めたことは何でもさい後まで終わらせます ・何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました ・数か月ごとに、新しいことにきょう味をもちます ・まじめにコツコツとやるタイプです 	

【3】学習方略について

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことです。とっとり学力・学習状況調査では、「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「認知的方略」「努力調整方略」の5つに分類しています。

①柔軟的方略	自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりするなど
【児童生徒質問紙の項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する ・勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる ・勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確認する ・勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える 	
②プランニング方略	計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など
【児童生徒質問紙の項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める ・勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確認する ・勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う ・勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す 	
③作業方略	ノートに書く、声を出すといった「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など
【児童生徒質問紙の項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく ・勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている ・勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる ・勉強で大切なところは、繰り返し書くなどして覚える 	
④認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など
【児童生徒質問紙の項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える ・勉強するときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする ・勉強してわからないことがあったら、先生にきく ・新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する 	
⑤努力調整方略	「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など
【児童生徒質問紙の項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう ・今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる ・授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単などころだけ勉強する ・問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する 	

(3) 帳票を活用した分析について

とっとり学力・学習状況調査の結果資料にはたくさんの種類の「帳票」がありますが、その中でも「帳票28」「帳票40」「帳票42」の3つの帳票をしっかりと分析することで、調査結果を学力向上に生かすために必要な情報の多くを得ることができます。中でも「帳票40」は結果分析の基本となる重要な帳票ですので、まずは「帳票40」の分析を行うことから始めてください。

①個々の児童生徒の現状と伸びを把握し、分析する【帳票40】

- ・本年度の結果を分析し、学級の児童生徒の現状を把握
- ・前年度からの学力の伸びを見ながら、伸びが大きい(小さい)児童生徒を確認
- ・学習方略・非認知能力の変化量が大きい(+・-)児童生徒を確認
 - 学力の伸びと学習方略・非認知能力の変化量を合わせて、個々の状況の見取り
 - 担任がすでに支援が必要であると認識している児童生徒かどうかの確認
(観察だけでは見抜けなかった支援の必要性に気づける場合あり)
 - 対応の必要性和、その場合の対応策の検討

②学年全体の学力の伸びを把握し、分析する【帳票28】

- ・学年別、教科別の学力の伸びと学習の状況について、学年全体の概要を把握
- ・県の学力の伸びの様子と比較して特徴が見られる部分を確認

③学級の学力の伸びを把握し、分析する【帳票40,42】

- ・帳票40のデータを見ながら、学級全体の学力の伸び、学習方略・非認知能力、主体的・対話的で深い学びの実施状況を確認
- ・帳票42で昨年度からの学力の伸びを見ながら、伸びの大きい学級、変化量が大きい学級を確認
- ・学力の伸びが見られた学級や教科を確認
- ・昨年度目標を立てて取り組んだ成果について把握し、継続すること、見直すことを見極める。また、結果について、その要因を考察し、効果のあった取組を共有

*「帳票42」は実施2年目以降の学校のみ配布されています。

「帳票40」を活用した分析（小学校4年生、実施1年目の学校）

「帳票40」には、主体的・対話的で深い学びの実施、非認知能力、学習方略の児童質問紙の回答状況が示されています。とっとり学力・学習状況調査から見られる一つの側面ではありますが、数値が低い項目が課題となっている可能性があります。

例えば、下の表で**自制心、学習意欲(算数)(非認知能力)**が低い児童は、国語のレベルは9-Cですが、算数のレベルは6-Bとなっており、**自制心及び学習意欲(算数)**を高めれば、算数のレベルが上昇する可能性があります。

各学校においては、「帳票40」を用いて、児童の非認知能力や学習方略等の課題を分析し、その課題を解決するための取組を行ってください。

※「帳票40」の見方

- ・数値の範囲は1.0～5.0(5.0が最もよい数値)
- ・数値は児童生徒質問紙でそれぞれ5段階(1～5)の回答を集約したもの

令和 年度とっとり学力・学習状況調査(小学校4年生)

学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別

鳥取県教育委員会

学年	国語 Rレベル	算数・数学 Rレベル	R 結果									
			主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力			
				柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	-	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(学考前)	やり抜く力(学考前)	
4	9-C	6-B	4.1	4.2	3.8	4.3	-	4.3	3.8	2.0	1.8	-
4	8-C	6-C	2.5	3.1	3.0	2.8	-	2.8	3.0	4.3	4.2	-
4	7-B	5-A	3.4	1.6	1.7	2.8	-	3.3	2.6	3.7	3.4	-

主体的・対話的で深い学びの実施の数値が他の項目より低く、課題となっている可能性がある。

柔軟的方略、プランニング方略(学習方略)の数値が他の項目より低く、課題となっている可能性がある。

自己効力感、やり抜く力の数値が他の項目より低く、課題となっている可能性がある。

☆他の項目に比べて極端に数値が低い項目や、平均に比べて低く出ている項目など課題になっていると思われる項目を抽出し、児童生徒の現状把握と個別の指導や支援に生かしましょう。

「帳票40」を活用した分析(実施2年目以降の学校・小学校4年生以外の学年)

40 学校用

令和〇年度ととり学力・学習状況調査(小学校6年生)

学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知) 児童生徒別

〇〇立〇〇小学校

本帳票の「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0となっています。

数値が**高い**ほど、よい値となっています。

「昨年度からの学力の伸び」がマイナスの場合は、赤字で表記しています。

年度	市町村教育委員会コード	市町村教育委員会名	学校コード	学校名	R〇在籍情報					R△在籍情報				
					個人番号	学年	組	出席番号	性別	個人番号	学年	組	出席番号	性別
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767745	6	1	1	2	1767745	5	1	1	2
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767746	6	1	2	2	1767746	5	1	5	2
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767747	6	1	3	1	1767747	5	2	3	1
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767749	6	1	4	1	1767749	5	2	5	1
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	3419788	6	1	5	1	-	-	-	-	-
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767769	6	1	6	1	1767769	5	2	26	2
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767750	6	1	7	2	1767750	5	1	9	1

★まずは各児童生徒の教科ごとの「伸び」を確認しましょう

- ・県や学校の伸びと比較して学力レベルをチェック
- ・県や学校の伸びと比較して伸び率をチェック
- ・大きく伸びた教科、2教科の学力レベルのバランスをチェック
(得意・不得意な科目の把握、伸びに偏りがいないかを確認)

	国語			算数・数学		
	R〇レベル	昨年度からの学力の伸び	R△レベル	R〇レベル	昨年度からの学力の伸び	R△レベル
学校平均	7-B	2	6-A	6-A	3	5-A
市町村平均	7-B	1	7-C	7-C	3	6-C
●●県平均	7-B	1	7-C	7-C	4	5-A
	7-C	4	5-A	7-A	4	6-B
	7-A	5	6-C	7-C	5	5-B
	8-C	4	6-A	5-A	-1	6-C
	3-C	0	3-C	6-C	2	5-B
	9-B	8	6-A	7-A	7	5-B

国・算バランスよく伸びている

算数に苦手意識が出てきた可能性あり

国・算のバランス悪く、国語が課題

国・算ともに大きく伸びている

教科のバランスが悪い場合は、個別支援の必要性を考える必要があります。

「帳票40」 ☆学力レベルと学習方略・非認知能力を合わせて分析

国語		算数・数学			R ^前 →R ^今 (変化量)										
R ^今 レベル	昨年度からの学力の伸び	R ^今 レベル	R ^今 レベル	昨年度からの学力の伸び	R ^今 レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力			
							柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人際対人関係方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤働性	自制心
7-B	2	6-A	6-A	3	5-A	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	-0.1	-0.1	-	-1.6	-
7-B	1	7-C	7-C	3	6-C	-0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	-1.7	-
7-B	1	7-C	7-C	4	5-A	-0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	-1.5	-
A	4	5-A	7-A	4	6-B	0.9	-0.3	1.2	0.2	-	-0.7	0.5	-	-2.2	-
B	5	6-C	7-C	5	5-B	0.4	0.5	0.3	0.0	-	0.5	0.2	-	-2.3	-
C	4	6-A	5-A	-1	6-C	0.8	-1.0	-0.5	-0.5	-	0.3	-0.7	-	-2.0	-
D	0	3-C	6-C	2	5-B	-0.2	2.3	1.0	1.0	-	0.5	-0.8	-	3.1	-
E	8	6-A	7-A	7	5-B	-0.1	-0.2	-0.5	-0.5	-	-0.8	0.2	-	-0.7	-

横に見ていくと、個人の伸びや課題が確認できる

Eの児童は、昨年度よりも大きく学力を伸ばしているが、主体的・対話的で深い学びの実施、非認知能力・学習方略の数値が、ほぼすべての項目で下がっている。

この児童は今後学力の伸びが少なくなる可能性も考えられる。今の良い状況だけに捉われず、今後の可能性も踏まえて指導や支援に当たっていくことが必要。

縦に見ていくと、項目ごとの学級全体の伸びや課題が確認できる

「勤働性」の数値がほぼ全員下がっており、何らかの要因があることが考えられる。

様々な要因が考えられるが、客観的な数値の状況から、教員が自らの指導を振り返り、授業改善等に生かしていくことが必要。

	R ^今 結果										R ^前 結果									
	主体的・対話的で深い学びの実施	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人際対人関係方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤働性	自制心	主体的・対話的で深い学びの実施	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人際対人関係方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤働性	自制心
	4.1	3.5	3.6	3.5	-	3.8	4.0	3.2	2.1	-	4.1	3.6	3.7	3.5	3.0	3.9	4.1	-	3.7	-
	3.9	3.4	3.4	3.4	-	3.7	4.0	3.3	2.2	-	4.0	3.4	3.5	3.4	3.1	3.7	4.0	-	3.9	-
	3.8	3.3	3.4	3.4	-	3.7	3.9	3.3	2.2	-	3.9	3.3	3.4	3.4	3.1	3.7	3.9	-	3.7	-
A	4.5	3.0	4.5	3.0	-	2.8	4.3	3.3	1.9	-	3.6	3.3	3.3	2.8	2.3	3.5	3.8	-	4.1	-
B	4.6	4.8	4.8	4.3	-	5.0	5.0	3.0	2.1	-	4.3	4.3	4.5	4.3	3.8	4.5	4.8	-	4.4	-
C	4.2	1.0	4.0	2.0	-	3.3	3.3	3.8	1.4	-	3.4	2.0	4.5	2.5	2.3	3.0	4.0	-	3.4	-
D	4.2	3.3	2.8	2.0	-	3.3	2.0	4.0	4.6	-	4.4	1.0	1.8	1.0	1.3	2.8	2.8	-	1.5	-
E	3.8	2.8	2.8	2.8	-	2.5	3.5	2.4	2.6	-	3.9	3.0	3.3	3.3	3.5	3.3	3.3	-	3.3	-

今年度のデータ

前年度のデータ

変化量だけでなく、数値そのものをチェックすることで、強み・弱みの確認をすることができる。(現時点での良さ・課題の把握)

Dの児童は変化量は大きいですが、数値自体が依然として低いため、支援を継続していく必要がある。Bの児童は変化量自体は少ないが、5点の項目が複数あり、力が付いていることが伺える。

前年度分析したデータを基に、チェックした項目がどのように変化したかを確認することができる。(経年変化の把握)

前年度の結果から個別に指導・支援を行ってきた児童や、学級全体で重点的に取組を行った項目について、その指導・支援の成果がどのように出ているかを、数値の変化量と共に経年で把握することができる。

学力の伸びと非認知能力・学習方略の変化を合わせて見ることで、個別の児童生徒や学級・学年ごとの指導や取組の成果がどのように表れたかを把握することができます。昨年度作成した『授業改善シート』を基に取り組んだことの成果も確認し、効果があったと思われる良い取組は、継続して取り組んだり、全校に広げたりして共有していきましょう。